

# 病人を癒やす



十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老は、奇跡が起こるには信仰が欠かせないことを教えました。

「信仰は天の力によって癒やされるために欠かせません。モルモン書は次のようにさえ教えています。『もしも人の子らの中になんか信仰がなければ、神は人の子らの中で何の奇跡も行おうことがおできない。』（エテル 12：12）〔1 ニーファイ 7：12；教義と聖約 35：9 も参照〕病人に癒やしの儀式を施すことに関する有名な説教の中で、スペンサー・W・キンボール大管長はこう語っています。『信仰の必要性がしばしば軽視されています。病人やその家族は祝福を受ける本人の方により大きな責任のあることに気づかず、ただ神権の力と儀式を施してくれる兄弟たちの賜物だけを当てにしているようです。……その人が正常な認識と責任の持てる人であれば、癒やされるか否かは他の何よりも本人の信仰にかかっているのです。「あなたの信仰があなたを救ったのです」〔マタイ 9：22〕と主は繰り返しておっしゃいました。』〔キンボール大管長、癒しの儀式を行うことについて語る、『聖徒の道』1982年8月号、43〕（『病人を癒す』『リアホナ』2010年5月号、48－49）



ダリン・H・オークス長老は、信仰を持つうえで大切なことは、神の御心を進んで受け入れることだとも強調しました。

「神の神権の確実な力を行使するとき、そして信仰の祈りを聞きこたえてくださるという神の約束を尊ぶときに、信仰と神権の癒やしの力は、その神権を所有しておられる御方の御心に反する結果をもたらすことはできないということをいつも覚えておく必要があります。この原則は、病人に手を置くように教会の長老たちに指示している啓示の中で教えられています。主はこう約束しておられます。『わたしによって癒やされるという信仰を持っていて、死に定められていない者は癒やされるであろう。』（教

義と聖約 42：48；強調付加）同様に、近代の別の啓示で主は『神の御心になんか求める〔ときに〕……彼が求めるとおりに行われる』と宣言しておられます（教義と聖約 46：30）〔1 ヨハネ 5：14；ヒラマン 10：5 も参照〕。

これら全てからわたしたちが学べるのは、主の僕でさえ、癒やされるという十分な信仰がある中で神の神聖な力を行使しているとしても、もし癒やすことが主の御心でないならば、その人が癒やされるという神権の祝福を与えることはできないということです。

神は偉大な愛の御方であり、わたしたちの永遠の幸福のために何が最善であるかを最もよく御存じの御方なので、神の子であるわたしたちは神を信頼しています。福音の第一の原則はイエス・キリストに対する信仰であり、信仰とは信頼です。そのような信頼を、重病で亡くなった10代の少女の葬儀の席で、わたしのいとこが語った言葉の中に感じました。その言葉に最初は驚き、それから教化されました。彼はこう言ったのです。『彼女が亡くなったのは主の御心でした。彼女は十分な治療を受けました。神権の祝福も受けました。彼女の名前は神殿の祈りの名簿に記されました。彼女の健康が回復するように数え切れないほど祈りがささげられました。そして、ご遺族には信仰が十分あるので、もし彼女を今天に召すことが主の御心でなかったなら、彼女は癒やされていたはずなのです。』同じような信頼を、大切な10代の娘をがんで亡くした父親の言葉の中にも感じます。彼はこう断言しました。『わたしたち家族の信仰は、イエス・キリストにあるのであり、結果にあるものではありません。』これらの教えは真実であると、わたしの心に鳴り響いています。わたしたちは愛する人が癒やされるようにできる全てを行います。そして結果については主を信頼するのです。』（『病人を癒す』『リアホナ』2010年5月号、49－50参照）

